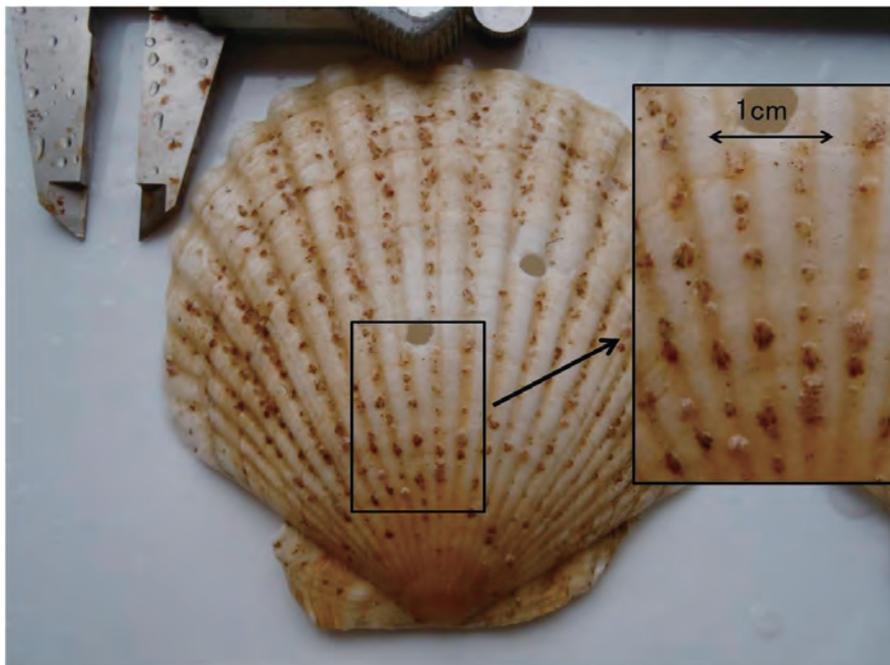


季報

第103号

イワガキ天然採苗マニュアル



採苗器に付着したイワガキ稚貝（採苗13日後）

平成24年3月

京都府農林水産技術センター海洋センター

目 次

はじめに	1
1 人工採苗と天然採苗	2
2 これまでの天然採苗試験結果	3
(1) 試験開始までの経緯	3
(2) 天然採苗の場所の検討	3
(3) 天然イワガキの付着時期	4
(4) 採苗器の垂下水深	4
3 天然採苗のための基礎知識	5
(1) 天然イワガキの産卵盛期	5
(2) 産卵のタイミング	5
(3) 採苗開始日の予測	6
(4) 種見 ^{たねみ} と採苗器の大量投入	6
4 天然採苗の作業マニュアル	7
(1) 準備作業	7
(2) 種見	8
(3) 採苗	11
(4) 採苗器連の移動	11
(5) 種苗配付（本垂下への移行）	11
おわりに	12

はじめに

京都府におけるイワガキ養殖の振興のため海洋センターでは、季報（第62号、87号、92号）でお知らせしてきたとおり、人工種苗生産技術や養殖（＝育成）技術の開発を行ってきました。その結果、「丹後の海 育成岩がき」の生産量、生産額も徐々に増大し、平成23年度は過去最高の7万個、17百万円となりました。

これまで育成に用いてきた種苗は、海洋センターの陸上水槽で生産した人工種苗ですが、その生産量は種苗生産施設の規模等の制約を受けます。さらに、人工種苗生産では飼育管理のための人件費、濾過海水供給のための電気代等のランニングコストが多くかかることから、育成イワガキの生産拡大のためにはこれらが大きな障壁となります。そこで、海洋センターでは平成21年度から23年度にかけて、生産コストが大幅に削減可能で、かつ種苗の大量供給が可能な天然採苗の技術開発試験を行いました。

この冊子では、漁業者の皆様自らが天然採苗できるように、「イワガキ天然採苗マニュアル」として試験結果をとりまとめましたので紹介します。